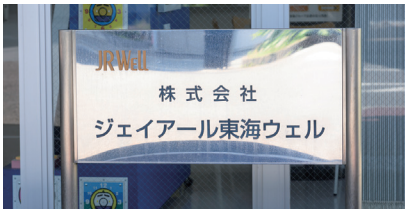
企画営業部 文書電子化事業課 課長代理の小倉明宏さん。WDCにて。

PFU導入事例 その他（印刷・サービス・BPO）

株式会社
ジェイアール東海ウェル

業種：その他（印刷・サービス・BPO）
社員数：129名（うち障がいのある社員は85名／2026年4月1日現在）
事業内容：印刷、封入・封かん、オフィスサポート、物品管理、文書電子化 ほか



JR東海が保有する膨大な量の紙資料をスキャン、毎月14万枚をコンスタントに電子化

創意と工夫でスキャナーを使いこなし、長さ6メートルの長尺図面もスキャン可能に

JR東海の特例子会社である株式会社ジェイアール東海ウェルでは、障がいを持つ方々を含めた大勢の社員がJR東海を支えるさまざまなバックオフィス業務に携わっています。それら業務のうち、JR東海が保有する膨大な量の紙資料を電子化する事業を一手に担うのが文書電子化事業課のウェル・ドキュメントセンター（WDC）です。WDCでは「fi-8950」「fi-7700」「ScanSnap SV600」のPFU製スキャナー 3機種を駆使し、ありとあらゆるサイズや紙質の資料を電子化しており、長さ6メートルの長尺図面も創意と工夫でスキャンしているとのこと。WDCを訪ね、高度な使いこなしの実際を拝見しながら詳しいお話をうかがいました。

課　題　業容拡大のため文書電子化事業を開始するにあたり、JR東海が保有する膨大な量の紙資料をスムーズに電子化でき、最大20人での電子化作業にも適したスキャナーが必要だった。
解決法　A3大容量スキャナー「fi-8950」、A3フラットベッド付きスキャナー「fi-7700」、A3オーバーヘッドスキャナー「ScanSnap SV600」の3機種を導入。
効　果　手探りで始めた電子化だったが、社員の工夫と機器の性能が相まって高品質なデータの生成が可能になった。現在では長尺図面の多くを「fi-8950」でスキャンできるようにもなっている。

JR東海が保有する膨大な量の紙資料をスキャナー 3機種で電子化

――株式会社ジェイアール東海ウェル 企画営業部 文書電子化事業課 課長代理の小倉明宏さんにうかがいます。会社の事業内容と、文書電子化事業の位置づけについて教えてください。

小倉さん　当社は東海旅客鉄道株式会社（以下、通称のJR東海と表記）の特例子会社として、障がいのあるなしにかかわらず仕事を通じて成果を認識して働く意欲を持てる会社を目指し、2006年に設立されました。JR東海グループの社内誌や名刺などの印刷や発送、JR東海の制服管理、オフィスサポート、ヘルスケアなど、さまざまな仕事にさまざまな特性を持った社員が向き合っています。

そこに新しく加わったのが文書電子化事業です。JR東海が倉庫に保管する膨大な量の紙資料をスキャンして電子化するのが主たる業務で、2025年3月に竣工したウェル・ドキュメントセンター（WDC）という専用社屋で電子化作業を行っています。JR東海からは「電子化後に廃棄した資料の分だけ保管スペースに余裕ができ、何よりも資料の検索が容易になってかなり助かっている」という声をいただいています。

――WDCではPFU製スキャナー 3機種を運用されているとか。

小倉さん　「fi-8950」5台、「fi-7700」3台、「ScanSnap SV600」2台が稼働しています。20人の社員が5班に分かれて作業しているため、主力の「fi-8950」は各班に1台ずつ配備しています。

WDCでの電子化作業は5班で行います（写真はそのうちの一班）。メインスキャナーの「fi-8950」が各班に1台ずつ配置されています。

月平均14万枚・70箱の紙資料をコンスタントに電子化。6メートルの長尺図面を折りたたみ「手差し・単送モード」で安全にスキャン

――WDCでは毎月何枚の資料を電子化しているのでしょうか。

小倉さん　2025年度の実績では月平均14万枚、段ボール箱の数にして70箱でした。最大で月24万枚・101箱を処理したこともありますが、受け入れる目安は毎月85～90箱程度です。箱数を基準にする理由は、資料によって枚数が大きく異なるためです。

――JR東海の資料には国鉄時代にまで遡るものもあるとか。実際にはどのような大きさ・紙質・厚みの紙をスキャンするのでしょう。

小倉さん　サイズは名刺大から長さ10メートル以上の線路図面まで、紙質は普通紙もあれば、藁半紙のような紙や非常に薄い紙もあり、青写真やトレーシングペーパーが出てくることもあります。資料の種類も、古い裁判資料や契約書、社内広報誌、設計図面、会議資料、議事録、立案書や経理関係書類など多岐にわたります。

――それだけ多様な資料を電子化するために、「fi-8950」「fi-7700」「ScanSnap SV600」をどのように使い分けていますか。↗

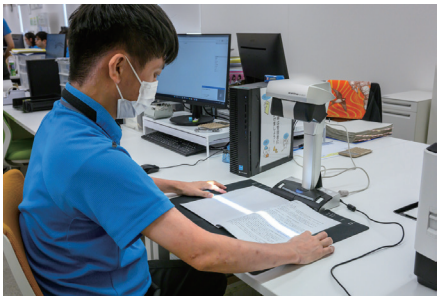
↘小倉さん　単票に分解できる資料であれば、基本的にメインスキャナーの「fi-8950」で読み取ります。このとき、A4やA3の普通紙であれば自動給紙で高速スキャンができますが、状態の悪い資料は「手差し・単送モード」で紙を送ります。たとえばティッシュペーパーのような薄葉紙が使われている古い裁判資料のスキャンには苦心しましたが、透明なキャリアシートで紙を挟み、1枚ずつ手差しすることで安全にスキャンできるようになりました。

一方、自動給紙が使えないもの、たとえば綴じられた契約書のように単票にできない永年保管資料などは「fi-7700」のフラットベッドを活用し、見開き単位やページ単位でスキャンします。

また、分解できない厚い冊子のような資料は非接触でスキャンできる「ScanSnap SV600」で読み取ります。見開き単位でスキャンし、画像補正機能で歪みを修正してからPDFを保存します。

A3大容量スキャナー「fi-8950」はUターンスキャン（写真）とストレートスキャンの両方が可能なほか、傾いた原稿を自動で整える「自動スキュー補正」機能、トラブルを未然に防ぐ「ステープル原稿検知」機能など、高い給紙性能を備えています。

「fi-7700」は多様なニーズに対応するフラットベッド付きA3スキャナーです。下部のフラットベッドはカバーを開けたままスキャンできる「カバーオープンクロップ機能」（写真）を備えており、作業時間を短縮できます。



「ScanSnap SV600」はパーソナルスキャナー「ScanSnap」シリーズの1機種で、冊子を傷めずにスキャンできるモデルです。サイズはA3まで、厚みは30ミリまで対応し、歪みを正す・写り込んだ指を消すといった画像補正が可能です。

――長い線路図面は「fi-7700」でスキャンするのでしょうか。

小倉さん　長い図面も「fi-8950」でスキャンできる場合があります。「fi-8950」の「手差し・単送モード」は6メートルまでの長尺読み取りが可能です。そのため左右が6メートル以内で、天地がA4長辺とほぼ同じ30センチ幅になるまで折りたたんだときに「fi-8950」を通る厚みに収まればスキャンできます。収まらなければ「fi-7700」で部分ごとにスキャンし、分割されたPDFにします。

――「fi-8950」は有線LAN接続で班ごとに共有しているとか。その狙いと、運用のルールやコツがあれば教えてください。

小倉さん　スキャナー導入時、短時間で高速かつ大量に電子化できる機種が必要でしたが、一人につき1台を配備するとスキャン以外の作業のときに高額の機器が何台も遊んでしまうため、複数人が接続できるスキャナーが必須だと考えました。そこで1対多のネットワーク接続ができ、高速で大量にスキャンできる「fi-8950」の採用に至りました。運用ルールとして、待ち時間の発生を防ぐために1回のスキャン枚数に制限を設け、少しずつスキャンしては結果を確認し、間違いがなければ続きをスキャンするようにしています。この運用は当社が最も重要視する品質の確保にも寄与しています。

ヘラを使って長い図面の天地が30センチ程度になるように折り、「fi-8950」の「手差し・単送モード」でスキャンできるようにします。

折った図面に手を添えながら「手差し・単送モード」で送り、スキャンします。

PFU A RICOH Company
［fiシリーズについてのお問い合わせ］
株式会社PFU
デモ機の無料貸し出し実施中！
詳しくはホームページをご覧ください。
株式会社PFU
お申込みはこちら